

2019年度第4回支部集会【東北支部】開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会 共催：看護と介護の日本語教育研究会（午前のみ）
開催日：2019年12月14日(土) 会場：東北大学文学研究科棟
参加者：110名（会員31名・一般79名）



2019年度東北支部集会が12月14日（土）に東北大学にて開催されました。師走で皆さんお忙しい時期ではという懸念がありましたが、近年の東北支部集会の参加者数の約4倍となる110名もの方々にご参加いただき、1日を通じてどのセクションでも盛会となりました。

午前には、支部活動企画に応募のあった「看護と介護の日本語教育研究会」と共催で、「『介護の日本語』の実践—対象者と学習項目・学習支援を考える—」と題して三橋麻子氏・丸山真貴子氏(看護と介護の日本語教育研究会/明海大学・大原学園)に看護と介護の日本語教師研修を行っていただきました。介護福祉士になるために必要な学習についてグループワークを交えた教師研修となりました。東北地区のみならず、他の地区からも足をお運びいただき、60名を超える参加者となり、介護関係の方々、行政の方々、日本語教育に携わっている方々など幅広い方々にお集まりいただくことができました。

午後には、ポスター発表3件、交流ひろば4件、口頭発表2件を実施しました。多くの方に足を運んでいただき、活発な質疑応答が行われました。続く、対話のひろばでは、「ちょっと『となり』を覗いてみよう—日本語教育の多様なありようを学び合う—」というテーマのもと、様々な日本語教育の現場で携わっている方々にお集まりいただき、日頃の実践や実践での悩み、工夫を共有しながら、ネットワーキングをするワールドカフェ形式のワークショップを開催しました。ゲストとして、遠藤和彦氏（仙台国際日本語学校／東北日本語教師の会）、大泉貴広氏（宮城県国際化協会）、須藤伸子氏（仙台観光国際協会）、田所希衣子氏（外国人の子ども・サポートの会）にもお越しいただき、活動に関してお話をいただきました。地域日本語に関わっている方々、子どもの日本語に関わっている方々、大学や日本語学校などで日本語教育に携わっている方々など様々な現場の皆さんにお集まりいただき、普段なかなか接することがない他の現場の方々と交流し、対話することで、新しいつながりをつくることができました。この新しいつながりをより有意義で強いものにしていくためにも、定期的に対話のひろばを開催して参りたいと思います。

今回の集会では、例年の参加者数をはるかに超える参加者数となり、予定していた会場が狭く、会場変更が多々あり、講師の先生ならびに参加者の皆様にはご迷惑をおかけいたしました。午前に講師として来てくださった先生方、午後にゲストとしてご参加くださった皆様には、心から御礼を申し上げますとともに、当日の運営にあたり、協力くださった小河原義朗さん（東北大学）、高橋亜紀子さん（宮城教育大学）、東北大学文学研究科日本語教育学研究室の皆さんにも、感謝申し上げます。ありがとうございました。

今回参加くださった皆様から、アンケートにて様々な興味関心が寄せられています。皆さんの興味関心に答えられるような支部集会を企画していくとともに、皆さんがつながっていけるような場の提供を行っていきたいと思います。

（報告者：支部活動委員 島崎薫・菊池哲佳）